

住宅地の余剰電力を活用した P2P電力取引及びDR等に係る 地産地消ネットワーク構築実証事業

(実施期間：令和6年6月～令和9年3月)

【取引状況】



Jera



これまでの取引実績について

せたがやでんき（買い手）P2P取引実績 ※2025年8月～2026年3月

参加者数	せたがや産でんきの 利用割合	せたがや産でんきの 平均単価	(参考) 大手電力の電力価格
54名	24.20%	23.80円/kWh	第一段階(120kWhまで) :29.80円/kWh 第二段階(120～300kWhまで):36.40円/kWh 第三段階(300kWh～) :40.49円/kWh

地域で発電された(せたがや産)の電力を使えば使うほど、より安い電力を利用可能！

せたがやシェア（売り手）P2P取引実績 ※2025年8月～2026年3月

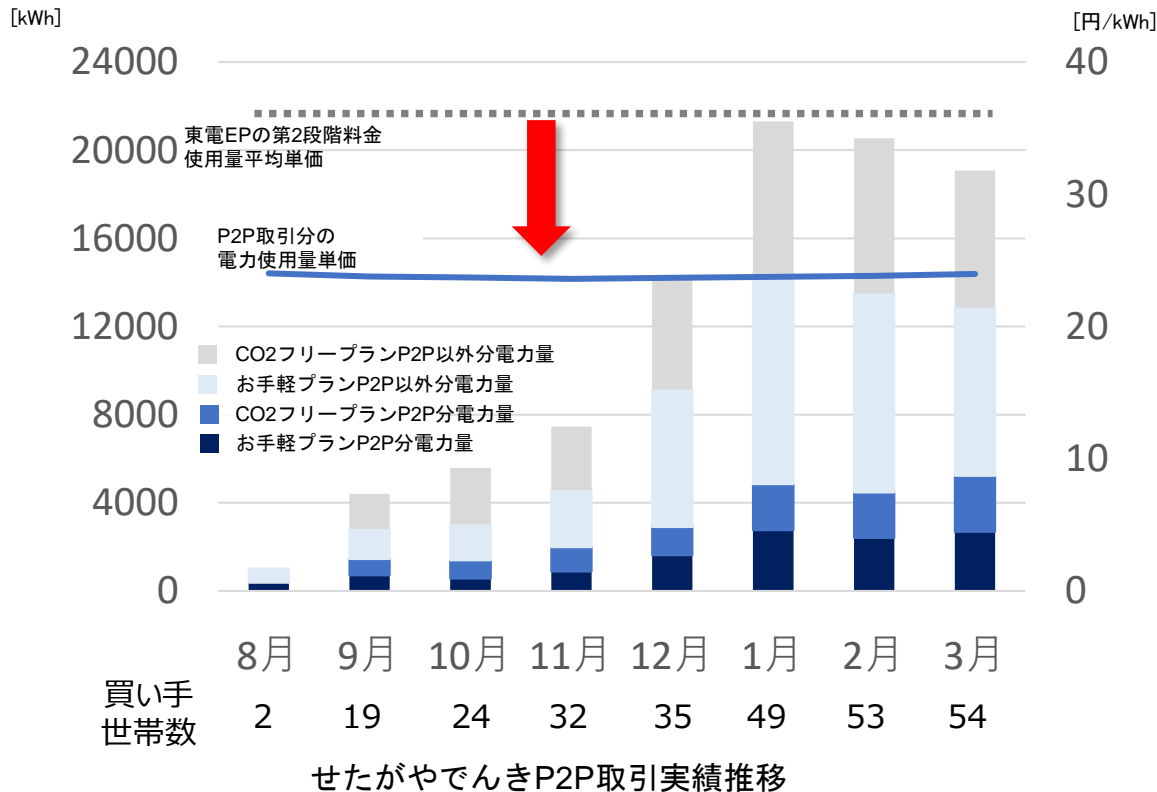
参加者数	区内への 売電割合	区内への 平均単価	全体の 平均売電単価	(参考) 大手電力の買取価格
161名	22.90%	11.58円/kWh	9.59円/kWh	8.5円/kWh

大手電力会社の価格より高い価格帯での売電ができています！

留意事項・・・端数処理等の関係により、上記の数字は顧客ごとの数字を積み上げた数字と若干の相違があります。
「大手電力の電力価格」は、東京電力の従量電灯B (<https://www.tepco.co.jp/ep/private/plan/old01.html>) を引用しています。

買い手のP2P実績 | せたがやでんき契約者数増加により、全体の取引量が増加している。そのうちP2Pの電力は20-35%程度を使用している

せたがやでんき（買い手）P2P取引実績推移



得られた示唆

買い手の需要量のうち、P2P分の電力は**20~30%程度で推移**しており、買い手側においても一定量のP2P電力が継続的に利用されていることが確認された。

増加の要因としては、以下の2点が考えられるため、今後継続監視を実施。

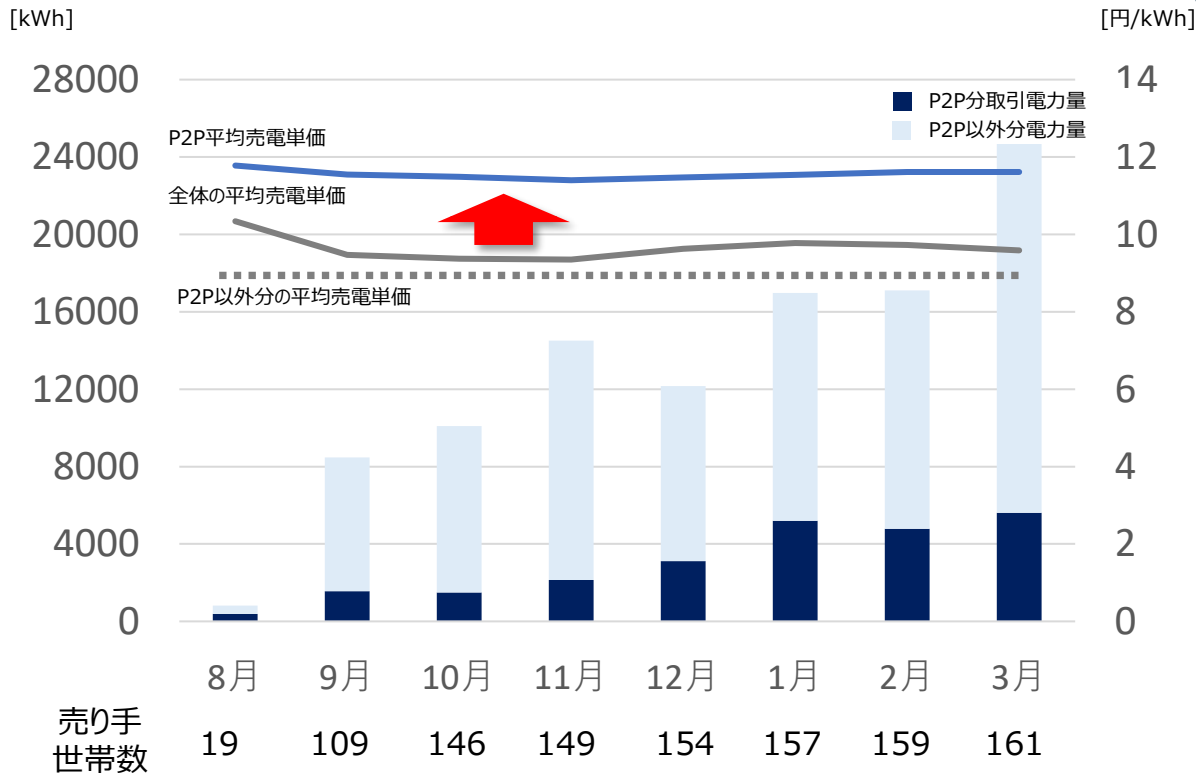
- **買い手数増加**による日中需要増加の影響
- 冬の気温低下による**季節性の電力消費量増加**の影響

また、P2P取引分の**電力量単価は概ね横ばいで推移**しており、現状は需給バランス変化による影響を大きく受けていない。

※実際に取引を行った人数を記載しています。
(取引量0kWhのお客様は抜いています)

売り手のP2P実績 | 余剰電力取引量のうち、P2P分は全体の15~30%程度であり、P2P取引量に余裕がある状態

せたがやシェア（売り手）のP2P取引実績推移



せたがやシェアP2P取引実績推移

得られた示唆

売り手の売電量は月間8,000~15,000kWh程度（70~100kWh/世帯）で推移しており、そのうちP2P市場での取引量は15~30%程度にとどまっている。
※買い手の電力需要が足りない状態

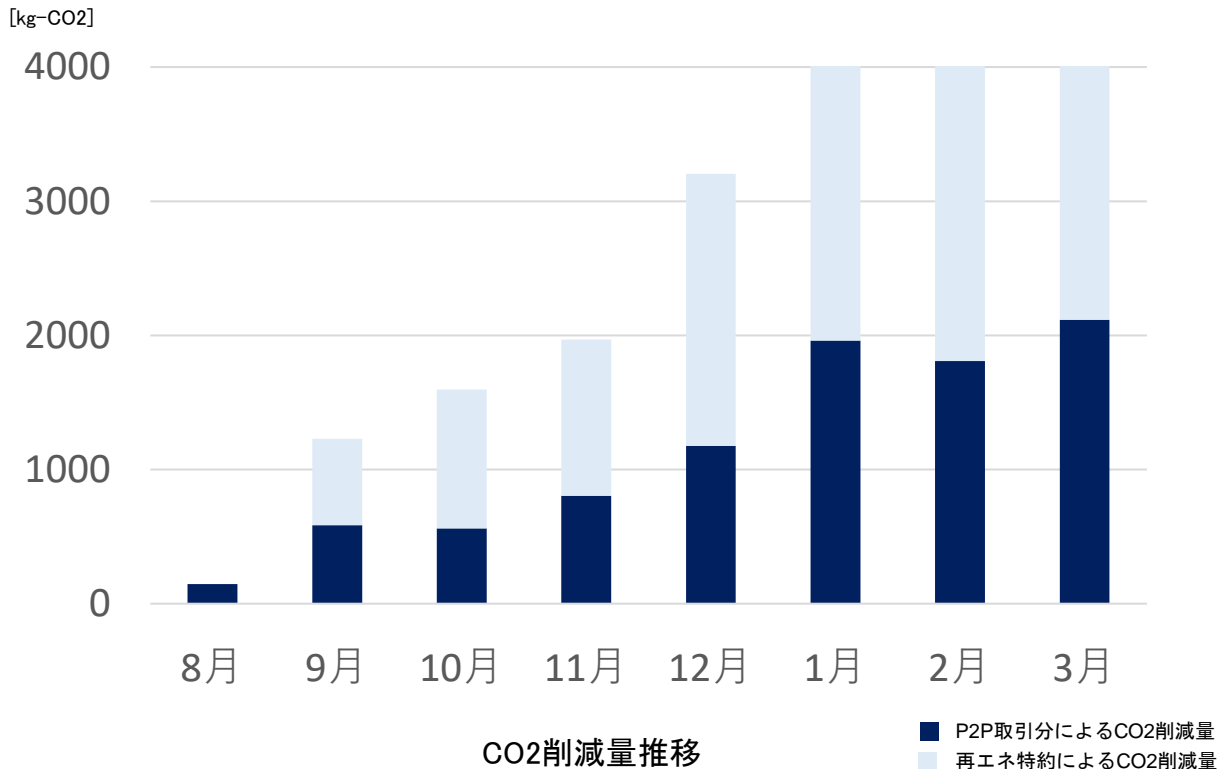
一方で、P2Pへの売電単価はP2P外売電単価よりも2.5円/kWh程度高く推移しており、**P2P取引量の拡大が売り手の経済性向上に直結**する構造であることが確認された。

そのため、今後は買い手の拡大や昼間需要の創出等を通じて、P2P取引量を増加させる施策が必要である。

※実際に取引を行った人数を記載しています。
(取引量0kWhのお客様は抜いています)

CO2削減量 | せたがやでんき契約者数増加によりCO2削減量も増加

CO2削減量推移



これまでのCO2削減量

本プロジェクトでのCO₂削減効果^{※1}



削減したCO₂の量

=



CO₂を吸収するスギの本数

22.19 [t-CO₂] 約1,586本

※電力取引分、再エネ特約プラン分を含む

※二酸化炭素排出係数0.405kg-CO₂,
スギの1本が年間で吸収するCO₂を14kgとして試算

P2P取引は実証期間を通じて継続的にCO₂削減効果を創出しており、**地域内で再エネを融通する仕組みとして一定の環境価値を有することが確認された。**

また、**再エネ特約を組み合わせることで、その効果をさらに拡張できる可能性が示された。**